



ファイバチャネルのゾーン分割

- [ファイバチャネルゾーン分割に関する情報 \(1 ページ\)](#)
- [Cisco UCS Manager でのファイバチャネルゾーン分割のサポート \(2 ページ\)](#)
- [Cisco UCS Manager-ベースのファイバチャネルゾーン分割に関するガイドラインおよび推奨事項 \(5 ページ\)](#)
- [Cisco UCS Manager ファイバチャネルゾーン分割の設定 \(5 ページ\)](#)
- [ファイバチャネルゾーン分割用の VSAN の作成 \(6 ページ\)](#)
- [新しいファイバチャネルゾーンプロファイルの作成 \(7 ページ\)](#)
- [ファイバチャネルゾーンプロファイルの削除 \(8 ページ\)](#)
- [ファイバチャネルユーザゾーンの削除 \(9 ページ\)](#)
- [両方のファブリックインターコネクต์にアクセス可能な VSAN からの管理対象外ゾーンの削除 \(10 ページ\)](#)
- [1つのファブリックインターコネクต์にアクセス可能な VSAN からの管理対象外ゾーンの削除 \(11 ページ\)](#)
- [ファイバチャネルストレージ接続ポリシーの設定 \(12 ページ\)](#)

ファイバチャネル ゾーン分割に関する情報

ファイバチャネルゾーン分割によって、ファイバチャネルファブリックを1つ以上のゾーンに区切ることができます。各ゾーンでは、VSAN で相互通信できるファイバチャネルイニシエータとファイバチャネルターゲットのセットが定義されます。ゾーン分割により、ホストとストレージデバイスまたはユーザグループ間のアクセス制御を設定することができます。



- (注) ファイバチャネルゾーニングは、次ではサポートされていません。Cisco UCS 6454 ファブリックインターコネクต์

ゾーン分割がもたらすアクセス制御とデータトラフィック制御によって以下が可能になります。

- SAN ネットワークセキュリティの強化

- データ損失や破損の防止
- パフォーマンス問題の軽減

ゾーンに関する情報

ゾーンは複数のゾーンメンバから構成されており、次のような特性を備えています。

- ゾーンのメンバ同士はアクセスできますが、異なるゾーンのメンバ同士はアクセスできません。
- ゾーンのサイズを変更できます。
- デバイスは複数のゾーンに所属できます。
- 1つの物理ファブリックに最大 8,000 ゾーンを収容できます。

ゾーンセットに関する情報

各ゾーンセットは、1つまたは複数のゾーンから構成されます。ゾーンセットを使用して、ファイバチャネルファブリック内でアクセス制御を実行することができます。また、ゾーンセットには次のような利点があります。

- アクティブにできるのは、常に1つのゾーンセットだけです。
- ゾーンセット内のすべてのゾーンは、ファブリック内のスイッチ全体で単一のエンティティとしてアクティブまたは非アクティブにできます。
- ゾーンセットへの変更は、ゾーンセットがアクティブになるまで適用されません。アクティブなゾーンセットに変更を加える場合は、変更を適用するためにそのゾーンセットを再アクティブ化する必要があります。
- 1つのゾーンを複数のゾーンセットのメンバにできます。
- ゾーン内の各スイッチは最大 500 のゾーンセットを持つことができます。

Cisco UCS Manager でのファイバチャネルゾーン分割のサポート

Cisco UCS Manager は、スイッチベースのファイバチャネルゾーン分割と Cisco UCS Manager ベースのファイバチャネルゾーン分割をサポートしています。同じ Cisco UCS ドメイン内ではゾーン分割タイプを組み合わせることで設定できません。次のゾーン分割タイプのいずれかを使って Cisco UCS ドメインを設定できます。

- Cisco UCS Manager-ベースのファイバチャネルゾーン分割：この設定は、直接接続ストレージとローカルゾーン分割の組み合わせです。ファイバチャネルまたは FCoE のスト

レージはファブリック インターコネクต์に直接接続され、ゾーン分割は、Cisco UCS ローカルゾーン分割を使用して Cisco UCS Manager で実行されます。既存のファイバチャネルまたは FCoE のアップリンク接続を無効にする必要があります。現時点では、Cisco UCS は、UCS ローカルゾーン分割機能の利用において、現用系なファイバチャネル/FCoE アップリンク接続をサポートしていません。

- スイッチベースのファイバチャネルゾーン分割：この設定は、直接接続ストレージとアップリンク ゾーン分割の組み合わせです。ファイバチャネルまたは FCoE のストレージはファブリック インターコネクต์に直接接続され、ゾーン分割は、MDS または Nexus 5000 スイッチを介して Cisco UCS ドメインの外部から実行されます。この設定では、Cisco UCS ドメインでのローカルゾーン分割はサポートされません。



- (注) ゾーン分割は VSAN 単位で設定されます。ファブリック レベルでゾーン分割を有効にすることはできません。

Cisco UCS Manager-ベースのファイバチャネル ゾーン分割

With Cisco UCS Manager-ベースのゾーン分割の場合、Cisco UCS Managerは、このタイプのゾーン分割で設定されたすべての VSAN のゾーンの作成やアクティブ化など、Cisco UCS ドメインのファイバチャネルゾーン分割の設定を制御します。このタイプのゾーン分割は、ローカルゾーン分割、または直接接続ストレージとローカルゾーン分割の組み合わせとも呼ばれます。



- (注) VSAN がアップストリーム スイッチの VSAN と通信するよう設定され、ファイバチャネルポートまたは FCoE アップリンク ポートを含んでいる場合は、Cisco UCS Manager-ベースのゾーン分割を実行できません。

サポートされているファイバチャネル ゾーン分割モード

Cisco UCS Manager-ベースのゾーン分割は、次のタイプのゾーン分割をサポートしています。

- [Single initiator single target] :Cisco UCS Manager は、vHBA とストレージポートのペアごとに、ゾーンを1つ自動的に作成します。各ゾーンには2つのメンバが含まれます。ゾーンの数がサポートされている最大値を超えると予想される場合を除いて、このタイプのゾーン分割を設定することを推奨します。
- [Single initiator multiple targets]:Cisco UCS Manager は、vHBA ごとにゾーンを1つ自動的に作成します。ゾーンの数がサポートされている最大値に到達またはそれを超えると予想される場合は、このタイプのゾーン分割を設定することを推奨します。

vHBA イニシエータ グループ

vHBA イニシエータ グループによって、サービス プロファイル内のすべての vHBA のファイバチャネルゾーン分割設定を決定します。Cisco UCS Manager には、デフォルトの vHBA イニシエータ グループは含まれていません。ゾーン内のサーバに割り当てるサービス プロファイルで vHBA イニシエータ グループを作成する必要があります。

vHBA イニシエータ グループでの設定により、以下が決定されます。

- イニシエータ グループに含める vHBA (vHBA イニシエータとも呼ばれる)。
- ファイバチャネルストレージ接続ポリシー。これには、関連する VSAN およびストレージアレイ上のファイバチャネルターゲットポートが含まれます。
- グループに含める vHBA に対して設定するファイバチャネルゾーン分割のタイプ。

ファイバチャネルストレージ接続ポリシー

ファイバチャネルストレージ接続ポリシーには、Cisco UCS Manager ベースのファイバチャネルゾーン分割の設定に使用される、ストレージアレイ上の一連のターゲットストレージポートが含まれています。このポリシーは、組織またはイニシエータグループの下に作成できます。

これらのゾーン内のストレージアレイは、ファブリック インターコネクต์に直接接続される必要があります。ファイバチャネルストレージ接続ポリシーに組み込むこれらのアレイのターゲットストレージポートには、ファイバチャネルストレージポートまたは FCoE ストレージポートを使用できます。ポートの WWN を使用して、ポートをポリシーに追加し、ファイバチャネルゾーンのポートを識別します。



(注) Cisco UCS Manager はデフォルトのファイバチャネルストレージを作成しません。

ファイバチャネルアクティブゾーンセット設定

ファイバチャネルゾーン分割が有効になっている各 VSAN では、Cisco UCS Manager は自動的に 1 つのゾーンセットと複数のゾーンを設定します。ゾーンメンバーシップは、相互通信が許可されたイニシエータとターゲットのセットを指定します。Cisco UCS Manager は、自動的にそのゾーンセットをアクティブにします。

Cisco UCS Manager は、ユーザ設定の vHBA イニシエータグループとそれらの関連したファイバチャネルストレージ接続ポリシーを処理し、ファイバチャネルイニシエータとターゲット間の必要な接続を決定します。Cisco UCS Manager は、イニシエータとターゲット間のペアワイズゾーンメンバーシップを構築するために、次の情報を使用します。

- vHBA イニシエータのポート WWN は、vHBA イニシエータグループから作成されます。
- ストレージアレイのポート WWN は、ストレージ接続ポリシーから作成されます。

スイッチベースのファイバチャネル ゾーン分割

スイッチベースのゾーン分割の場合、Cisco UCS ドメインはアップストリーム スイッチからゾーン分割設定を継承します。Cisco UCS Manager では、ゾーン分割の設定に関する情報を設定したり表示したりできません。VSAN に対してスイッチベースのゾーン分割を適用するには、Cisco UCS Manager でその VSAN のゾーン分割を無効にする必要があります。

Cisco UCS Manager-ベースのファイバチャネル ゾーン分割に関するガイドラインおよび推奨事項

ファイバチャネル ゾーン分割の設定を計画する際は、次のガイドラインおよび推奨事項を考慮してください。

ファイバチャネル スイッチング モードは **Cisco UCS Manager** 設定用のスイッチ モードでなければならない

Cisco UCS Manager にファイバチャネル ゾーン分割を処理させる場合は、ファブリック インターコネクタがファイバチャネルスイッチモードである必要があります。エンドホストモードではファイバチャネル ゾーン分割を設定できません。

ハイ アベイラビリティのために対称構成を推奨

Cisco UCS ドメイン が 2 つのファブリック インターコネクタによるハイ アベイラビリティ構成である場合は、両方のファブリック インターコネクタに同一の VSAN セットを設定することを推奨します。

Cisco UCS Manager ファイバチャネル ゾーン分割の設定



(注) この手順は、Cisco UCS Managerにより制御されるファイバチャネルゾーン分割に対し Cisco UCS ドメイン を設定するのに必要な手順の概要を示します。次のすべてのステップを完了する必要があります。

手順

- ステップ 1** まだ完了していない場合は、Cisco UCS ドメイン内のファブリック インターコネクタの接続を、外付けファイバチャネルスイッチ (MDS など) から切り離してください。
- ステップ 2** Cisco UCS ドメインにまだ外部ファイバチャネルスイッチによって管理されたゾーンが含まれる場合は、これらのゾーンを削除するために、影響を受けたすべての VSAN で **clear-unmanaged-fc-zone-all** コマンドを実行します。

この機能は現在、Cisco UCS Manager GUI では使用できません。このステップは、Cisco UCS Manager CLI で実行する必要があります。

ステップ 3 ファイバチャネルスイッチモードの両方のファブリック インターコネクでファイバチャネル スイッチング モードを設定します。

エンドホスト モードではファイバチャネル ゾーン分割を設定できません。

ステップ 4 ファイバチャネルゾーンのトラフィック転送に必要なファイバチャネルと FCoE ストレージポートを設定します。

ステップ 5 1つ以上の VSAN を作成し、ファイバチャネルゾーンのトラフィック転送に必要なすべての VSAN で、ファイバチャネルのゾーン分割を有効にします。

クラスタの設定では、ファイバチャネルゾーンに含める予定の VSAN をファイバチャネルストレージモードで作成し、それらが両方のファブリック インターコネクにアクセスできるようにすることを推奨します。

ステップ 6 1つ以上のファイバチャネルストレージ接続ポリシーを作成します。

必要に応じて、この手順を実行してサービス プロファイルにファイバチャネルゾーン分割を設定することができます。

ステップ 7 ファイバチャネルゾーン経由で通信する必要があるサーバに対してサービス プロファイルまたはサービス プロファイル テンプレートにゾーン分割を設定します。

この設定を完了するには、次の手順を完了します。

- VHBA に割り当てられた VSAN（複数の場合あり）のゾーン分割を有効にします。
- 1つ以上の vHBA イニシエータ グループを設定します。

ファイバチャネル ゾーン分割用の VSAN の作成

手順

ステップ 1 UCS-A# `scope fc-uplink`

ファイバチャネルアップリンク モードを開始します。

ステップ 2 UCS-A /fc-uplink #`create vsan {VSAN_Name} {VSAN_ID} {FCoE_VLAN_ID}`

次を入力します。

- **VSAN_Name** : ネットワークに割り当てられている名前。この名前には、1～32文字の英数字を使用できます。- (ハイフン)、_ (アンダースコア)、: (コロン)、および. (ピリオド) は使用できますが、それ以外の特殊文字とスペースは使用できません。また、オブジェクトが保存された後に、この名前を変更することはできません。

- **VSAN_ID** : ネットワークに割り当てられている固有識別情報。ID は、1 ~ 4078 または 4080 ~ 4093 の間で設定できます。4079 は予約済み VSAN ID です。
- **FCoE_VLAN_ID** : ファイバチャネル接続に使用される VLAN に割り当てられている固有識別情報。ID は、1 ~ 4029 または 4048 ~ 4093 の間で設定できます。VLAN 4048 はユーザが設定可能です。ただし、Cisco UCS Manager では、VLAN 4048 が次のデフォルト値に使用されます。4048 を VLAN に割り当てる場合は、これらの値を再設定する必要があります。
 - Cisco UCS リリース 2.0 へのアップグレード後 : FCoE ストレージポートのネイティブ VLAN は、デフォルトで VLAN 4048 を使用します。デフォルト FCoE VSAN が、アップグレード前に VLAN 1 を使用するように設定されていた場合は、未使用または未予約の VLAN ID に変更する必要があります。たとえば、デフォルトを（未使用の VLAN ID）4049 に変更することを検討します。
 - Cisco UCS リリース 2.0 の新規インストール後 : デフォルト VSAN 用の FCoE VLAN は、デフォルトで VLAN 4048 を使用します。FCoE ストレージポート ネイティブ VLAN は VLAN 4049 を使用します。

Cisco UCS CNA M72KR-Q や Cisco UCS CNA M72KR-E などの FIP 対応統合型ネットワークアダプタの場合は、FCoE VLAN ID のネイティブ VLAN ではないネームド VLAN を使ってネームド VSAN を設定する必要があります。この設定により、FCoE トラフィックが確実にこれらのアダプタを通過できるようになります。

ステップ 3 UCS-A /fc-uplink #commit-buffer

例

次の例では、TestVsan という名前の VSAN を作成して、システムの変更をコミットします。

```
UCS-A # scope fc-uplink
UCS-A /fc-uplink # create vsan TestVsan 2 30
UCS-A /fc-uplink/vsan* # commit-buffer
UCS-A /fc-uplink/vsan #
```

新しいファイバチャネルゾーン プロファイルの作成

新しいファイバチャネルゾーン プロファイルを作成するには、次の手順を実行します。

始める前に

VSAN がファイバチャネルゾーン分割用に作成されていることを確認します。

手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	UCS-A # scope fc-storage	ファイバチャネルストレージモードを開始します。
ステップ 2	UCS-A /fc-storage # create fc-zone-profile <i>Profile_Name</i>	指定した名前のファイバチャネルプロファイルを作成します。
ステップ 3	UCS-A /fc-storage/fc-zone-profile* # create fc-user-zone <i>Zone_Name</i>	ファイバチャネルゾーンのプロファイルモードを開始し、指定したファイバチャネルゾーンを作成します。
ステップ 4	UCS-A /fc-storage/fc-zone-profile/fc-user-zone* # set path {A B}	ファイバチャネルゾーンのパスを設定します。
ステップ 5	UCS-A /fc-storage/fc-zone-profile/fc-user-zone* # set vsan <i>VSAN_Name</i>	ファイバチャネルゾーンをネームド VSAN に設定します。
ステップ 6	UCS-A /fc-storage/fc-zone-profile/fc-user-zone* # create member <i>wwpn</i>	ファイバチャネルゾーンプロファイルの WWPN を作成します。
ステップ 7	UCS-A /fc-storage/fc-zone-profile/fc-user-zone* # commit-buffer	トランザクションをシステムの設定にコミットします。

例

次に、myProfile という名前の FC ゾーン分割ポリシーを作成する例を示します。

```
UCS-A# scope fc-storage
UCS-A /fc-storage # create fc-zone-profile myProfile
UCS-A /fc-storage/fc-zone-profile* # create fc-user-zone myZone
UCS-A /fc-storage/fc-zone-profile/fc-user-zone* # set path A
UCS-A /fc-storage/fc-zone-profile/fc-user-zone* # set vsan test
UCS-A /fc-storage/fc-zone-profile/fc-user-zone* # create member 20:c2:11:25:b5:00:00:7f
UCS-A /fc-storage/fc-zone-profile/fc-user-zone/member* # commit-buffer
```

ファイバチャネル ゾーン プロファイルの削除

ファイバチャネルゾーンプロファイルを削除するには、次の手順を実行します。

手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	UCS-A # scope fc-storage	ファイバチャネルストレージモードを開始します。
ステップ 2	UCS-A /fc-storage # delete fc-zone-profile <i>Profile_Name</i>	指定した名前のファイバチャネルプロファイルを削除します。
ステップ 3	UCS-A /fc-storage* # commit-buffer	トランザクションをシステムの設定にコミットします。

例

次に、myProfile という名前の FC ゾーンプロファイルを削除する例を示します。

```
UCS-A # scope fc-storage
UCS-A /fc-storage # delete fc-zone-profile myProfile
UCS-A /fc-storage* # commit-buffer
UCS-A /fc-storage #
```

ファイバチャネルユーザゾーンの削除

ファイバチャネルユーザゾーンの削除するには、次の手順を実行します。

手順

-
- ステップ 1** UCS-A # **scope fc-storage**
ファイバチャネルストレージモードを開始します。
- ステップ 2** UCS-A /fc-storage # **scope fc-zone-profile** *Profile_Name*
指定したファイバチャネルプロファイルに移動します。
- ステップ 3** UCS-A /fc-storage/fc-zone-profile # **delete fc-user-zone** *Userzone_Name*
指定したファイバチャネルユーザゾーンの削除します。
- ステップ 4** UCS-A /fc-storage/fc-zone-profile* # **commit-buffer**
トランザクションをシステムの設定にコミットします。
-

例

次に、myZone という名前の FC ユーザゾーンプロファイルを削除する例を示します。

```
UCS-A # scope fc-storage
UCS-A /fc-storage # scope fc-zone-profile myProfile
UCS-A /fc-storage/fc-zone-profile # delete fc-user-zone myZone
UCS-A /fc-storage/fc-zone-profile* # commit-buffer
UCS-A /fc-storage #
```

両方のファブリック インターコネクต์にアクセス可能な VSAN からの管理対象外ゾーンの削除

外部ファイバチャネル スイッチを切断した後、そのスイッチによって管理されていたファイバチャネルゾーンが Cisco UCS ドメイン からクリアされていない場合があります。この手順では、Cisco UCS ドメイン内の各 VSAN からこれらのゾーンを削除して、ファイバチャネルゾーン分割を Cisco UCS に設定できます。

始める前に

まだ完了していない場合は、Cisco UCS ドメイン内のファブリック インターコネクต์の接続を、外付けファイバチャネル スイッチ（MDS など）から切り離してください。

手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	UCS-A# scope fc-uplink	ファイバチャネルアップリンク モードを開始します。
ステップ 2	UCS-A /fc-uplink # scope fabric {a b}	指定したファブリック インターコネクットのファイバチャネルアップリンクモードを開始します。
ステップ 3	UCS-A /fc-uplink/fabric # scope vsan vsan-name	指定されたネームド VSAN の VSAN モードが開始されます。
ステップ 4	UCS-A /fc-uplink/fabric/vsan # clear-unmanaged-fc-zones-all	指定されたネームド VSAN からすべての管理対象外ファイバチャネルゾーンをクリアします。 必要に応じて、ステップ2から4を繰り返し、バッファをコミットする前に、指定したファブリック インターコネクต์にアクセス可能なすべての VSAN から管理対象外のゾーンを削除することができます。
ステップ 5	UCS-A /fc-uplink/fabric/vsan # commit-buffer	トランザクションをシステムの設定にコミットします。

例

次の例では、管理対象外のゾーンをファブリック インターコネクต์ A にアクセス可能なネームド VSAN から削除し、トランザクションをコミットする方法を示します。

```
UCS-A# scope fc-uplink
UCS-A /fc-uplink # scope fabric a
UCS-A /fc-uplink/fabric # scope vsan finance
UCS-A /fc-uplink/fabric/vsan # clear-unmanaged-fc-zones-all
UCS-A /fc-uplink/fabric/vsan* # commit-buffer
UCS-A /fc-uplink #
```

1つのファブリック インターコネクต์にアクセス可能な VSAN からの管理対象外ゾーンの削除

外部ファイバチャネルスイッチを切断した後、そのスイッチによって管理されていたファイバチャネルゾーンが Cisco UCS ドメイン からクリアされていない場合があります。この手順では、Cisco UCS ドメイン内の各 VSAN からこれらのゾーンを削除して、ファイバチャネルゾーン分割を Cisco UCS に設定できます。

始める前に

まだ完了していない場合は、Cisco UCS ドメイン内のファブリック インターコネクットの接続を、外付けファイバチャネルスイッチ（MDS など）から切り離してください。

手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	UCS-A# scope fc-uplink	ファイバチャネルアップリンク モードを開始します。
ステップ 2	UCS-A /fc-uplink # scope vsan vsan-name	指定されたネームド VSAN の VSAN モードが開始されます。
ステップ 3	UCS-A /fc-uplink/vsan # clear-unmanaged-fc-zones-all	指定されたネームド VSAN からすべての管理対象外ファイバチャネルゾーンをクリアします。 必要に応じて、ステップ 2 と 3 を繰り返し、バッファをコミットする前に、両方のファブリック インターコネクต์にアクセス可能なすべての VSAN から管理対象外のゾーンを削除することができます。

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 4	UCS-A /fc-uplink/vsan # commit-buffer	トランザクションをシステムの設定にコミットします。

例

次の例では、管理対象外のゾーンをネームド VSAN から削除し、トランザクションをコミットする方法を示します。

```
UCS-A# scope fc-uplink
UCS-A /fc-uplink # scope vsan finance
UCS-A /fc-uplink/vsan # clear-unmanaged-fc-zones-all
UCS-A /fc-uplink/vsan* # commit-buffer
UCS-A /fc-uplink #
```

ファイバチャネルストレージ接続ポリシーの設定

ファイバチャネルストレージ接続ポリシーの作成

手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	UCS-A# scope org org-name	指定した組織の組織モードを開始します。ルート組織モードを開始するには、 <i>org-name</i> として / を入力します。
ステップ 2	UCS-A /org # create storage-connection-policy policy-name	ストレージ接続ポリシーを指定されたポリシー名で作成し、組織ストレージ接続ポリシー モードを開始します。
ステップ 3	UCS-A /org # set zoning-type {none simt sist}	<ul style="list-style-type: none"> • [None]: Cisco UCS Manager ファイバチャネルゾーニングは設定されていません。 • [Single Initiator Single Target] : Cisco UCS Manager は、vHBA とストレージポートのペアごとに、ゾーンを 1 つ自動的に作成します。各ゾーンには 2 つのメンバが含まれます。ゾーンの数がサポートされている最大値を超えると予想される場合を除いて、このタイプのゾーン分割を設定することを推奨します。

	コマンドまたはアクション	目的
		<ul style="list-style-type: none"> • [Single Initiator Multiple Targets] : Cisco UCS Manager は、vHBA ごとにゾーンを 1 つ自動的に作成します。ゾーンの数がサポートされている最大値に到達またはそれを超えると予想される場合は、このタイプのゾーン分割を設定することを推奨します。
ステップ 4	UCS-A /org/storage-connection-policy # create storage-target <i>wwpn</i>	指定された WWPN を持つストレージターゲット エンドポイントを作成し、ストレージターゲット モードを開始します。
ステップ 5	UCS-A /org/storage-connection-policy/storage-target # set target-path {a b}	ターゲット エンドポイントとの通信に使用するファブリック インターコネクタを指定します。
ステップ 6	UCS-A /org/storage-connection-policy/storage-target # set target-vsan <i>vsan</i>	ターゲット エンドポイントとの通信に使用する VSAN を指定します。
ステップ 7	UCS-A /org/storage-connection-policy # commit-buffer	トランザクションをシステムの設定にコミットします。

例

次の例では、ファブリック インターコネクタ A とデフォルト VSAN を使用して `scPolicyZone1` という名前のルート組織でファイバチャネルストレージ接続ポリシーを設定し、トランザクションをコミットします。

```
UCS-A# scope org /
UCS-A /org* # create storage-connection-policy scPolicyZone1
UCS-A /org/storage-connection-policy* set zoning-type sist
UCS-A /org/storage-connection-policy* # create storage-target 20:10:20:30:40:50:60:70
UCS-A /org/storage-connection-policy/storage-target* # set target-path a
UCS-A /org/storage-connection-policy/storage-target* # set target-vsan default
UCS-A /org/storage-connection-policy* # commit-buffer
UCS-A /org/storage-connection-policy #
```

ファイバチャネルストレージ接続ポリシーの削除

手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	UCS-A# scope org <i>org-name</i>	指定した組織の組織モードを開始します。ルート組織モードを開始するには、 <i>org-name</i> として / を入力します。
ステップ 2	UCS-A /org # delete storage-connection-policy <i>policy-name</i>	指定されたストレージ接続ポリシーを削除します。
ステップ 3	UCS-A /org # commit-buffer	トランザクションをシステムの設定に対して確定します。

例

次の例では、ルート組織から `scPolicyZone1` という名前のストレージ接続ポリシーを削除し、トランザクションをコミットします。

```
UCS-A# scope org /
UCS-A /org # delete san-connectivity-policy scPolicyZone1
UCS-A /org* # commit-buffer
UCS-A /org #
```

翻訳について

このドキュメントは、米国シスコ発行ドキュメントの参考和訳です。リンク情報につきましては、日本語版掲載時点で、英語版にアップデートがあり、リンク先のページが移動/変更されている場合がありますことをご了承ください。あくまでも参考和訳となりますので、正式な内容については米国サイトのドキュメントを参照ください。